

エビデンス・ベースト・マネジメント講座

～人事統計分析手法講座～

講師

城戸 康彰(きど やすあき)



1975年千葉大学人文学部卒業、1981年慶應義塾大学商学研究科博士課程修了。現在産能大学大学院総合マネジメント研究科教授。経営行動科学学会元会長、現在は、人材育成学会理事を務める。組織行動論が専門であるが、組織の構造、文化・人材の意識といったソフト面の変革や、戦略的な人的資源管理の展開が研究テーマとなっている。主要な研究業績に、『日本型組織変革の変遷と展望』、『自立分散型組織の現状と可能性』、『日本企業の戦略的人的資源管理の現状と課題』、『企業内キャリアセンターの現状と発展のための条件』(共著)、産業能率大学紀要、2007、27巻2号等がある。

桜木 晃裕(さくらぎ あきひろ)



学習院大学法学部卒業、金融業界・コンサルティング業界で10年勤務、産能大学大学院経営情報学研究科修了、修士(経営情報学)、横浜国立大学大学院国際開発研究科修了、博士(学術)、現在、共栄大学国際経営学部准教授、豊橋創造大学大学院兼任講師、産業能率大学大学院兼任講師。専門分野は、組織行動論、人的資源管理論、キャリア開発論。近著には、『企業の組織』共著(八千代出版)2005年、『女性の仕事環境とキャリア形成』編著(税務経理協会)2006年、『現代経営行動論』共著(白桃書房)2007年などがある。

開催概要

【全6回】木曜日開催
 日程 6/19、26、7/3、10、17、31
 時間 18:30～21:00
 参加費 一般 168,000円(税・教材費込)
 会員 117,600円(税・教材費込)
 定員 24名(最小催行人員10名)

コース概要・特色

- ◇ 社会調査法の種類やそれぞれの特性を理解するとともに、とくに調査票を用いた定量的な調査方法を主に学びます。次に、エクセル用の統計アドインソフトを用いて基本的なデータ解析の実習をします。また、実際に簡単な調査票を作成して、社内で収集したデータを分析して調査を実体験してもらいます。
- ◇ 従業員満足調査等の社内調査の設計や実施ができるとともに、収集したデータの基本的な分析ができるようになります。

お勧めしたい方

次世代CHOならびに候補者の方、経営企画、経営管理、事業企画、人事機能をご担当されるリーダー など

コースポイント・カリキュラム

- ◇ ケースを活用し、理論習得と演習を繰り返すことで、実践的な使える力を身につけていただきます
- ◇ 自社独自の課題からES調査を作ることができ、人材マネジメントのあり方など把握できます
- ◇ 最終的には分析・報告書の書き方など懇切丁寧に指導いたします。

第1回

- 1) オリエンテーション
 - エビデンスに基づく管理の重要性
- 2) 定性的調査と定量的調査
 - 両調査の方法と特質
- 3) 調査の実施
 - 調査の企画、調査票の作成、サンプリング等

第2回

- 1) 仮説構築とモデル
 - 因果関係の想定と分析モデル
- 2) 調査票の作成
 - 調査票の作成法を学び、実際にある部門を対象とした簡単な調査票を作成してみる

第3回

- 1) 基本統計量を理解する
 - 平均値、標準偏差、ヒストグラム
- 2) 検定の意味を理解する
 - 正規性の検定、母平均の検定
- 3) 平均値の差から意味を読み取る
 - 2群の差の検定(t検定)

第4回

- 1) 2変量の相関関係を探索する
 - 相関分析(ピアソン相関分析)
- 2) 2変量の因果関係を探索する
 - 単回帰分析
- 3) 多変量の因果関係を探索する
 - 重回帰分析

第5回

- 1) 変量の潜在的な構造を抽出する
 - 因子分析の意味とその有効性
- 2) 統計分析をどのように用いるのかを理解する
 - 探索型の分析か、検証型の分析か

第6回

- 調査結果のプレゼンテーション
- 自社で実施した調査を分析し、分析結果および発見事実、対策について報告してもらう
 - 報告内容について受講者を交え議論して、調査やその結果、人事としての対応について検討する

